

広報

県遊協

山形県遊技業組合
TEL 023-615-6922
FAX 023-615-6923
Eメール yamagata@zennichiyure.n.or.jp

★県遊協平成28年初の理事会を開催

平成28年2月2日午後2時30分から、パレスグランデールにおいて28年最初の理事会を開催。全国理事会の状況、伊勢志摩サミットの入れ替え自粛、保安課長講話などの報告を行った。協議事項

○第一号議案

遊技業界における健全化推進に関する声明の承認と県遊協の声明文の発出について

○第二号議案

県遊協専務理事に関する人事案件
第三号議案 第八回カーニバルの実施について
7月16(土)・17(日)・18(月)に実施決定。

○次回財務委員会・理事会の開催について

財務3月22日午前11時・理事会同日午後1時

▽伊勢志摩サミットによる入れ替え自粛については、1月の全国理事会で承認されず、2月12日に開催された臨時全国理事会で承認されました。その内容は、左に記載しております。

★伊勢志摩サミット開催による遊技機の入替自粛日程決まる

2月12日開催の臨時全国理事会において「伊勢志摩サミット開催による遊技機の入替自粛」について審議され、全国一斉の自粛期間として平成28年5月2日(月)から平成28年5月27日(金)までの間と決定しました。この期間に前後の土、日、祝日を加えると

となり、**平成28年4月29日(祝) ↓ 同5月29日(日)までの31日間**

となります。入れ替え申請などの具体的な日程等については、今後県警と協議してお知らせします。なお、『検定機と性能が異なる遊技機の回収日程』と重なっておりますので、適宜調整を図り意図的に回収を遅らせているとの指摘を受けないようご注意ください。

★置賜支部暴力追放等研修会を開催

28・1・13 東京第一ホテル米沢

○第一部(午後3時から1時間)

・暴力団情勢の現状とその対策等について
暴走センター専務理事 堀 敏彦氏の講演

○第二部(午後4時から1時間)

検定機と性能が異なる遊技機の取扱等について
県遊協専務理事 熊坂榮吉氏の講演

○第三部 新年会

権支部長・井上理事長・各店長など21名参加
置賜支部では、組合一本化以降、酒席の伴う新年会は始めて。色々な話が出て参考になりました。今後は多くの組合員に積極的に参加いただけますようお願いいたします。



置賜支部新年会



山形支部新年会

★最北支部暴力追放等研修会を開催

28・1・26 天童ホテル

○第一部(午後5時30分から1時間)

・暴力団情勢の現状とその対策等について
暴走センター専務理事 堀 敏彦氏の講演

○第二部(午後6時30分から1時間)

検定機と性能が異なる遊技機の取扱について
県遊協事務局長 大津辰雄氏の講演

○第三部 新年会

増井支部長・大津事務局長・各店長など15名が参加、最北支部は、ここ数年宿泊付きの新年会を開催しており、協調性の高い支部です。報告によると、大変にぎやかな新年会となったとか。年一回はOKだと思います。



最北支部新年会



庄内支部新年会

★山形支部暴力追放等研修会を開催

28・1・15 ホテルキャッスル

○第一部(午後3時30分から1時間)

・暴対法における不当要求行為と県暴排条例
県警本部組織犯罪対策課 鈴木孝司警部

○第二部(午後4時30分から1時間)

検定機と性能が異なる遊技機の取扱等について
県遊協専務理事 熊坂榮吉氏の講演

○第三部 新年会

金村支部長・井上理事長・各店長など33名が出席しました。遊技機の入替自粛については多くの皆さんが関心を持っており、その件に関する話題が中心のようでした。山形支部としては年に一回は、お酒のある懇親会を実施していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

★県警生活安全部江口参事官(兼生安企画課長) 新年会祝辞から一部を抜粋

「ここで立場上、一言申し上げなければならぬことがあります。それは、遊技釘についてであります。警察庁の要請に基づく、遊技産業健全化推進機構の遊技機性能調査結果により、一般入賞口に全く玉が入らない、又は入りにくいばちんこ遊技機が存在が明らかになりました。そして、11月には、ばちんこメーカー団体である日本遊技機工業組合が「遊技くぎの変更について日工組組合員にも責任の一端がある」として、「検定機と性能が異なる可能性のあるばちんこ遊技機について業界を挙げて自主回収していく」ことを警察庁に報告するまでに至りました。この背景として、昨年12月25日に発表された業界6団体によるばちんこ遊技機の撤去回収等に関する声明において「メーカー間、ホール間での競争が激化する中、射幸性の高い遊技機の比率が高まったことがその一因ではないか」と分析がなされています。市場の要望とはいえ、これら遊技くぎの変更という行為が一部の方であっても「業界では常識」との考えがあったとすれば、由々しきものと言わざるを得ないのであります。往々にして、その業界に没頭していきまると、業界内の理屈が常識となるものですが、それは他からすれば非常識に写る場合があります。時として遊技客の視線で、どうなのか振り返っていただきたいのであります。検定機と性能が異なる可能性のあるばちんこ遊技機については、責任の多くはメーカーにある訳です。しかし、残念ながら現に設置しているホールについて責任を全く免れる訳ではありません。今後の撤去対象遊技機の撤去が円滑に進められることを期待しているところであります。



編集後記(熊坂)

今年の冬は寒かったり、暑かったり、雨が降ったり、とにかく不安定がずっと続いています。健康には注意、子供にも注意です。